

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号)

## & アジア・新興国FXフラッシュ

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部



※各マーケットコメントは7月31日(金) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

### ◆ 今月の相場見直し

		7月30日現在 (矢印は6月末比)	8月の予想	
USD	ドル・円 (円)	↘ 104.73	↗	103.00 ~ 108.00
	足元のドル安の動き巻き戻しによりドル円は上昇を見込む			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.185	↘	1.13 ~ 1.20
	ユーロ・円 (円)	↗ 124.07	↘	121.00 ~ 126.00
復興基金等への好感は一服、ユーロ買いポジション巻き戻しで下落				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.310	↘	1.24 ~ 1.32
	ポンド・円 (円)	↗ 137.15	↘	132.00 ~ 138.00
英EU間の通商交渉を巡り不透明感も出やすくポンド安を予想				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 75.35	↘	71.00 ~ 77.00
	NZドル・円 (円)	↗ 70.16	↘	67.00 ~ 71.50
資源価格高はサポートも、ドル安の趨勢で上値が重い				
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 22,339	↘	21,000 ~ 23,000
	感染再拡大が意識されることや、季節的要因から下落を予想			
長期 金利	NYダウ (ドル)	↗ 26,314	↘	24,500 ~ 27,500
	感染再拡大への警戒や、景気回復ペースの鈍化から下落を予想			
長期 金利	日本 (%)	⇒ 0.021	⇒	-0.05 ~ 0.08
	金融政策の当面維持が予想され、現行水準でのみ合い継続を予想			
長期 金利	米国 (%)	↘ 0.546	↗	0.50 ~ 0.80
	一層の金融緩和観測は出づらく追加財政も意識され金利上昇			

### ◆ 今月の注目ポイント

米国の追加財政・バイデン大統領候補の動向に注目		
テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	◎	<b>【景気】米国の追加財政発動動向を注視。</b> 共和党は1兆ドル規模の追加財政案を提出したものの、既に3.5兆ドル規模の追加財政案を下院で可決させた民主党との協議が難航。7月末に期限を迎える失業保険給付上乘せ分の動向は個人所得への影響が大きく、注目が集まる。合意できなければ財政の崖が意識され、注視したい。
金融政策	○	<b>【FRB】フォワードガイダンス強化へ。</b> 次回9月のFOMCにもフォワードガイダンスの強化が見込まれる。今月末に行われるFRB主催の金融政策シンポジウムを経て、予てよりFRBが進めてきた金融政策フレームワーク見直しとともに、現行の金融緩和政策を強化するものとなろう。
政治	◎	<b>【米国大統領選挙】民主党副大統領候補者選定及びバイデン氏の政策に注目。</b> バイデン氏は8月上旬にも副大統領候補を発表する予定。8/17から行われる民主党全国大会で正式に大統領候補に選出された後は、バイデン氏の具体的な政策内容も公表されるとみられ、内容が注目される。

### ◆ 新興国通貨見直し

人民元・円	↘	14.8 ~ 15.2	レアル・円	↘	19.6 ~ 21.0
バーツ・円	↘	3.28 ~ 3.45	メキシコペソ・円	↘	4.50 ~ 5.00
ルピア・円	↘	0.68 ~ 0.73	ルーブル・円	↘	1.35 ~ 1.54
ルピー・円	↘	1.30 ~ 1.45			

### ◆ 今月の重要日程

3日(月) 米	7月ISM製造業	14日(金) 米	7月小売売上高
5日(水) 米	7月ISM非製造業	17日(月) 米	民主党全国大会 (17~20)
6日(木) 英	BOE金融政策委員会	17日(月) 日	20/2Q GDP1次速報
7日(金) 米	7月雇用統計	19日(水) 米	FOMC議事録 (7/28、29)
12日(水) 米	7月CPI	21日(金) 日	7月CPI
14日(金) 中	7月生産・小売・投資	21日(金) 欧	8月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

### ドル 円

米ドル・円 ↗ ドル・円は上昇 **103.00 - 108.00円**



#### 足元のドル安の巻き戻しによりドル円は上昇を見込む

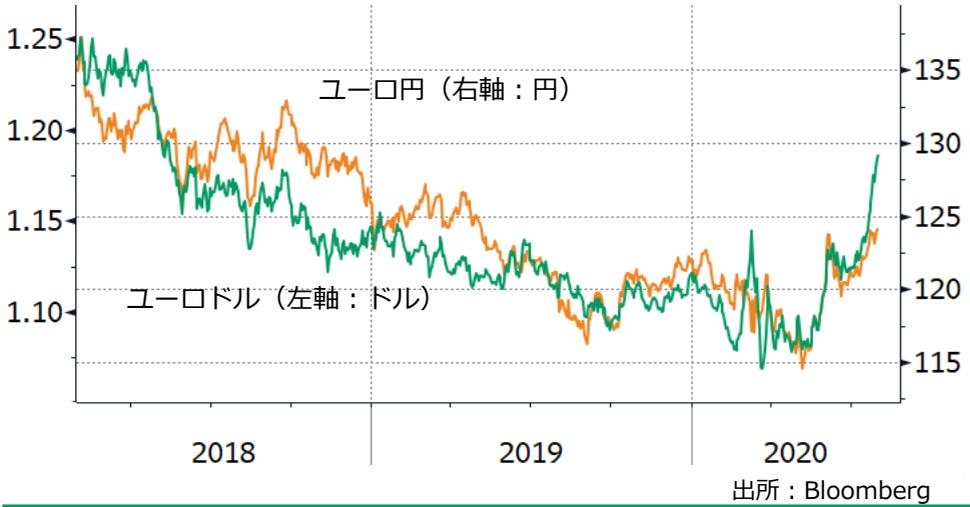
7月は主要通貨全体に対してドル安が進行。円はドル以外の通貨に対して総じて円安傾向となっているものの、強いドル安によりドル円はレンジを切り下げている。目先はドル安の動きが巻き戻され、8月のドル円の上昇を見込む。

ドル安要因は複数考えられるものの、欧州復興基金設立等を受けてユーロ高圧力から相対的にドル売りが強まったことが大きな要因となっている。足元では投機筋のユーロ買いポジションが高水準となっており、ポジションの巻き戻しが入りやすい時間帯。ドルの巻き戻しと共に、ドル円は上昇するとみる。

米国内での感染者増加やそれに伴う景気回復期待の一服もドル安の一因となるものの、感染再拡大への警戒が残り経済のV字回復が難しいことは米国だけの問題ではない。また金融政策面ではFRBによるフォワードガイダンス強化等、緩和強化への思惑から米国の中短期金利は低位に留まりやすいが、一層の緩和観測は出づらく更なるドル安要因とはなりづらい。

### ユ ー ロ

ユーロドル ↘ ユーロドルは下落 **1.13 - 1.20ドル**  
 ユーロ円 ↘ ユーロ円は下落 **121.00 - 126.00円**



#### 復興基金等への好感は一服、ユーロドル・ユーロ円は下落を予想

欧州復興基金は協議難航したものの、最終的にはEU首脳会議で7/21に合意に至る。欧州各国のコロナ禍からの復興に向けて重要な進展、またEU結束の強化が示されたことが好感され、足元の為替市場ではユーロ高ドル安の動きが強まっている。

中期的にユーロ相場は底堅く推移するとみるものの、目先は投機筋のユーロ買いポジションに積み上がりもみられ、一旦はユーロ高の動きが巻き戻されやすい時間帯。

世界的に新型コロナウイルスの感染再拡大が続く中で、欧州では比較的感染封じ込めに成功し緩やかに経済活動が回復しつつあることは安心材料となっている一方、3-4月の各国のロックダウンを受けた経済へのダメージは大きく、また感染再拡大リスクも排除できないことから経済が元の水準に戻るには相応の時間がかかる。ユーロが一方向に選好される地合いは継続しづらいとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

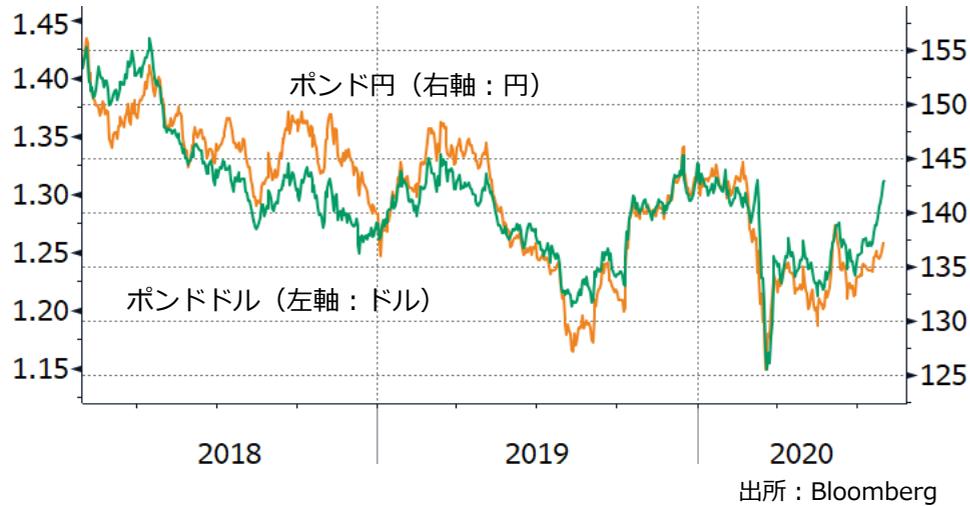
◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

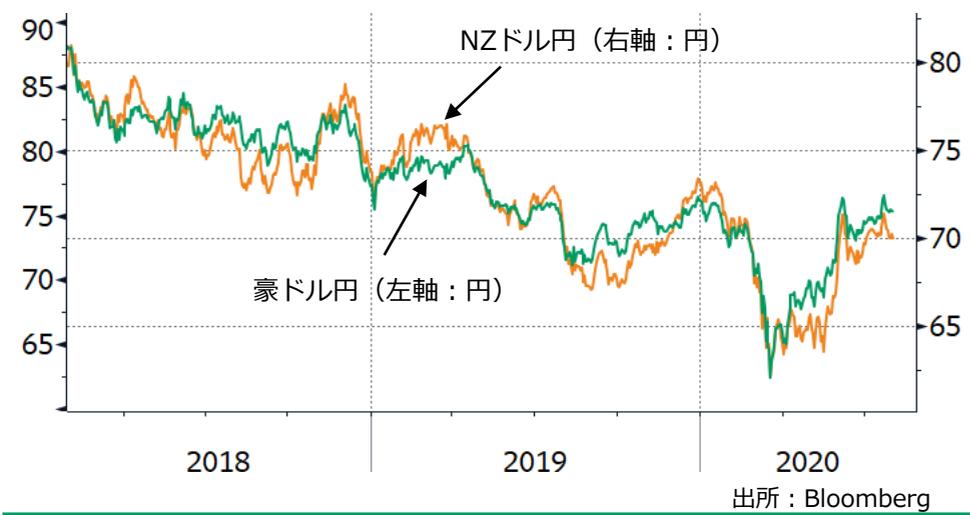
### ポンド



ポンドドル	ポンドドルは下落	<b>1.24 - 1.32ドル</b>
ポンド円	ポンド円は下落	<b>132.00 - 138.00円</b>

**ポンドドルは下落、ポンド円は下落を予想**  
 英ポンド相場はポンドドル1.2台でのみみ合いの動きが続いていたが、足元ではドル安の動き主導で1.3近辺へとレンジを切り上げている。一方で、英国経済には先行き不透明感が強く、また年末に控えるEU離脱の移行期間終了を控えた英EU間の通商交渉難航も意識され、ポンドは対ユーロでは弱含みが続く。  
 今後はドル安の動きが一部巻き戻されるとみており、ポンドドルは下落するとみる。ドル主導の調整局面が一巡すれば、以下の理由からポンド相場に当面の方向感の出づらいとみる。①英金融政策は一時マイナス金利観測が燻ったものの、前回会合では議論進展はみられず次回も政策金利維持が予想される。②EU離脱を巡っては英EU間の通商協定の集中協議が行われるものの、両者の隔たりは大きく、進展には時間を要する。

### 豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は下落	<b>71.00 - 77.00円</b>
NZドル円	NZドル円は下落	<b>67.00 - 71.50円</b>

**豪ドル円は下落、NZドル円は下落を予想**  
 足元オセアニア通貨は、軟調なドルや、資源価格の上昇、また先行する中国の景気回復期待にサポートされ、底堅い推移となっている。  
 一時は新型コロナの抑え込みに成功していたオーストラリアだが、現在南半球は冬を迎え感染が再拡大している。一部地域では再ロックダウンなども行われていることから、徐々に上値の重さが意識されやすい。急ピッチなドル安や資源価格高の動きには短期的には巻き戻しの動きも出やすい。ポジション調整の動きが出れば、オセアニア通貨の上値も重くなろう。8/4に行われる豪中銀金融政策決定会合では、現状の政策金利据え置きが見込まれる。7/29に発表された最新の消費者物価指数は前四半期比大幅な低下となっており、当面は現状の低金利政策が継続するとみる。

◎注意事項をよくお読み下さい

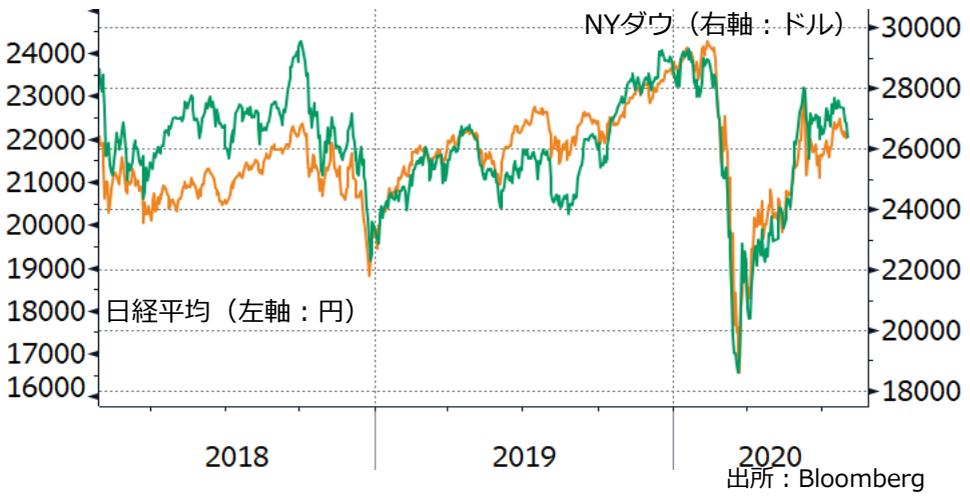


# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/07/31

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

### 株式見通し



日経平均 日経平均は下落 **21,000 - 23,000円**

#### 日本株は下落を予想

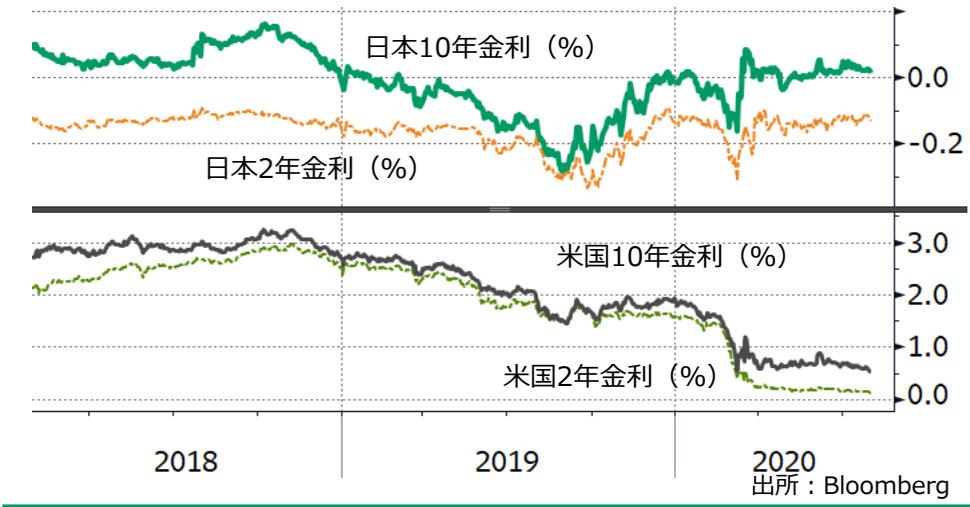
全国的な感染者数の再拡大から、緊急事態宣言までは至らずとも、政府からは経済活動を一部自粛するなどの要請も出ており、投資家心理を冷やしやすい。季節的にも8月は例年薄商いのなか株価が下落する局面も多く、日本株は上値の重い展開を予想する。

NYダウ ダウは下落 **24,500 - 27,500ドル**

#### 米国株は下落を予想

経済の急ピッチな回復が続いてきたが、足元の感染再拡大の状況から今後の経済回復ペースも緩慢になると見られ、徐々に株価の上値も重くなろう。追加の財政を巡って協議が難航しているが、個人所得を押し上げていた失業保険の上乗せは減額となる公算が高い。また、大統領選挙を巡っては民主党の副大統領候補や、政策も明確になると見られ、世論調査の動向等に注目したい。

### 長期金利見通し



日本国債10年 金利は横ばい **▲0.05 - 0.08%**

#### 日本国債は金利横ばいを予想。

日銀は7月金融政策決定会合で金融政策を据え置き、その後公表された主な意見を見ても、3月以降のコロナ対応による緩和強化策の政策効果を見極める姿勢が伺える。金融政策に大きな動きがない中で国内金利はもみ合い。需給面では、財政拡張による増発や日銀の国債買入方針を受けて長い年限に金利上昇圧力もかかるが、買い余力もある中で上昇余地は乏しい。

米国債10年 金利は上昇 **0.50 - 0.80%**

#### 米国債は金利上昇を予想。

金融政策面でフォワードガイダンス導入等の緩和強化策が意識されるなか、投資家の資金余剰に伴う強い買い需要から10年金利は低位に留まっている。しかし、議会で進行する追加経済対策議論が最終的には成立に向かう可能性が高く、増発が意識されると金利はレンジを切り上げる。財政議論が難航しても追加緩和の可能性低い中では低下余地は限定的であろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/07/31

## ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		7/30		8月の予想	7月のレビュー	8月の見通し
中国	人民元/円	15.00	↓	14.8~15.2	7月の人民元相場は中国マクロが着実に改善する中で1ドル7.0円程度まで元高が進んだのちはおもひが、月末にかけてドル安基調が強まった中でも、米中対立激化が意識される中で元も軟調。対円では元安が進行し月末にかけて1元15円近辺の水準。	米中問題のエスカレートはメインとはみないが、香港問題や新型コロナの責任追及を巡っては米中双方に妥協点を探ることは難しく、人民元相場の下押し材料となる。景気回復期待による株高、人民元高に調整も入るだろう。また8月にかけてはドル安の動きが巻き戻されるとみえており、ドル高主導でドル人民元は上昇を予想する。
	ドル/人民元	7.01	↑	6.90~7.15		
タイ	バーツ/円	3.34	↓	3.28~3.45	月前半は閣僚の辞任が相次ぐなどタイ政治の混乱が嫌気されドルバーツは31バーツ台後半へと値を切り上げた。月末にかけてはドル安圧力が強まったことで切り返した。一方対円では月間を通して円高バーツ安の動きが進んでいる。	政権の混乱が続く中でタイバーツ相場は上値が重い展開が続くとみる。非常事態宣言延長に伴う経済への悪影響も懸念され下押し材料となるだろう。8月にかけては足元のドル安が一部巻き戻されることも想定しており、ドルバーツは上昇を予想。対円では下落が続くとみる。
	ドル/バーツ	31.44	↑	30.8~32.0		
インドネシア	ルピア/円	0.715	↓	0.68~0.73	インドネシアルピアは、中銀が国債の直接引き受けを行う財政ファイナンスへの懸念が高まっていることや、中銀が今年4回目となる利下げを行ったことから下落も、下旬はドル安から下げ幅を縮小した。対円では月を通して下落となった。	引き続き上値の重い展開を予想。軟調なドルがインドネシアルピアをサポートするが、ドル安が巻き戻される局面では上値が重くなると見る。財政ファイナンスへの懸念も燃えるなかで、新型コロナの感染拡大も収束の気配はなく、上値の重い推移が予想される。
	ドル/ルピア	14,600	↑	14,400~15,000		
インド	ルピー/円	1.40	↓	1.30~1.45	インドの新型コロナウイルス感染者数は米国、ブラジルに次いで3番目の多さとなっていることや、財政懸念などから月の前半は上値重く推移。月の後半は軟調なドルや、中銀による追加緩和による景気浮揚期待から、下げ幅を縮小。対円では月を通して下落となった。	上値の重い展開を予想。足元軟調なドルの地合いを受けサポートされているインドルピーだが、短期的にはドルの反転が見込まれ、上値が重くなると見る。また、財政懸念も燃えることや、一部で継続している都市封鎖も延長となっていることも上値を抑えよう。
	ドル/ルピー	74.85	↑	74.0~76.0		

◎注意事項  
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ



## ◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨 (中南米・ロシア)

		7/30		8月の予想	7月のレビュー	8月の見通し
ブラジル	リアル/円	20.32	↓	19.6~21.0	7月前半にかけてブラジルリアル相場は1ドル5.4リアル近辺でのみみ合いが続いたが、足元はドル安の動きを受けて相対的にリアル高となった。対円でも買い戻し圧力が優勢で、月間を通してはリアル円は上昇した。	先行きも国内のコロナ禍が続く中で、景気回復への不透明感は強くリアル相場の重石となるものの、金融政策面をみると政策金利が過去最低2.25%となる中で残された緩和余地は限定的。世界的に金融市場が安定する中は資金流出懸念も出づら。ドル安巻き戻しにより対ドルで下落する局面があるとみるが、リアル相場は大崩れはしないだろう。
	ドル/リアル	5.16	↑	5.00~5.30		
メキシコ	ペソ/円	4.75	↓	4.50~5.00	7月のメキシコペソは底堅い推移となった。月後半にかけてドルが軟調推移となる中、ドルペソは22ペソ近辺にレンジを切り下げた。対円では横ばい推移となった。	メキシコペソは上値の重い展開を予想。足元軟調なドルもメキシコペソをサポートしているが、短期的にはドルの反転も見込まれること、また結びつきの強い米国での感染再拡大の動きや、先行きの利下げも見込まれており、徐々に上値は重くなる。
	ドル/ペソ	22.02	↑	21.0~23.5		
ロシア	ルーブル/円	1.43	↓	1.35~1.54	7月のロシアルーブルは、国内外での感染が拡大傾向にあることや、中銀による利下げ、また欧州向けガスパイプライン計画を巡る米国による制裁が警戒され、上値重く推移した。	ロシアルーブルは上値の重い展開を予想。中銀が更なる利下げを示唆していることや、8月よりOPEC+は減産量を縮小する見込みであり、新型コロナウイルスが一部で再拡大している状況下、需要回復の緩慢さが意識され、原油価格の上値も重く見ると見る。一方で、徐々に国内の経済も回復基調にあることから、下値も限定的となろう。
	ドル/ルーブル	73.16	↑	70.0~76.0		

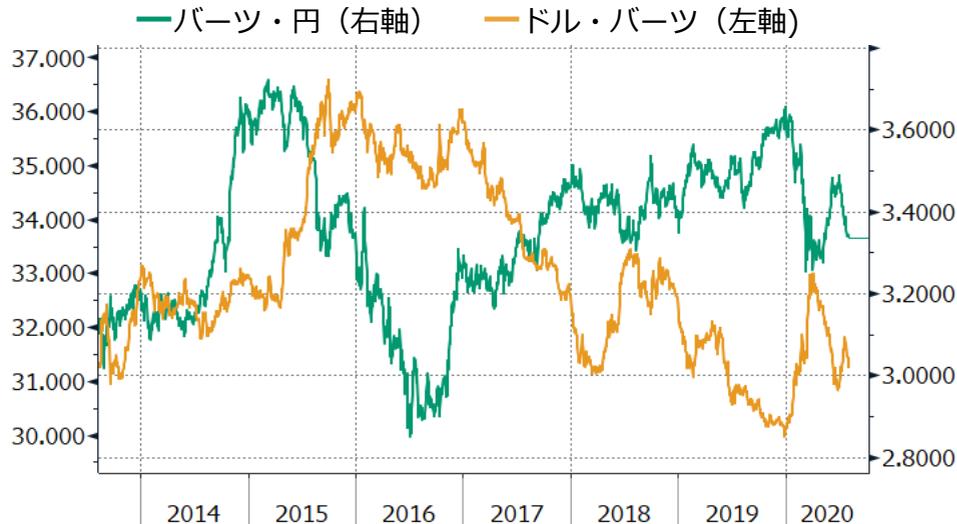
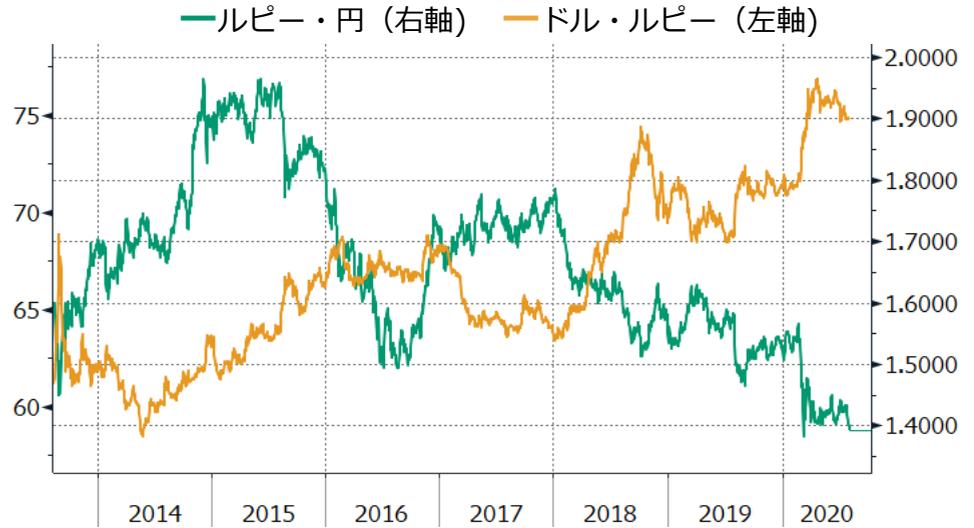
◎注意事項をよくお読み下さい

## りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/07/31



### ◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

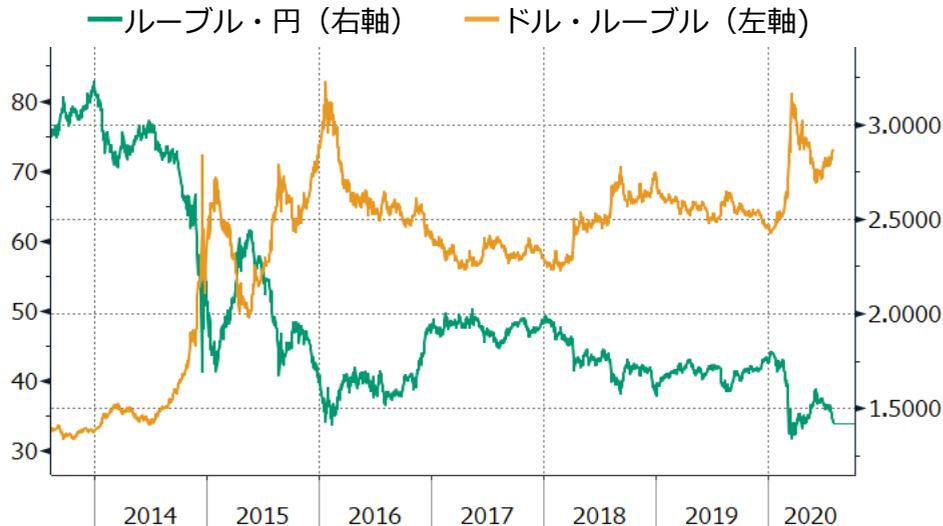
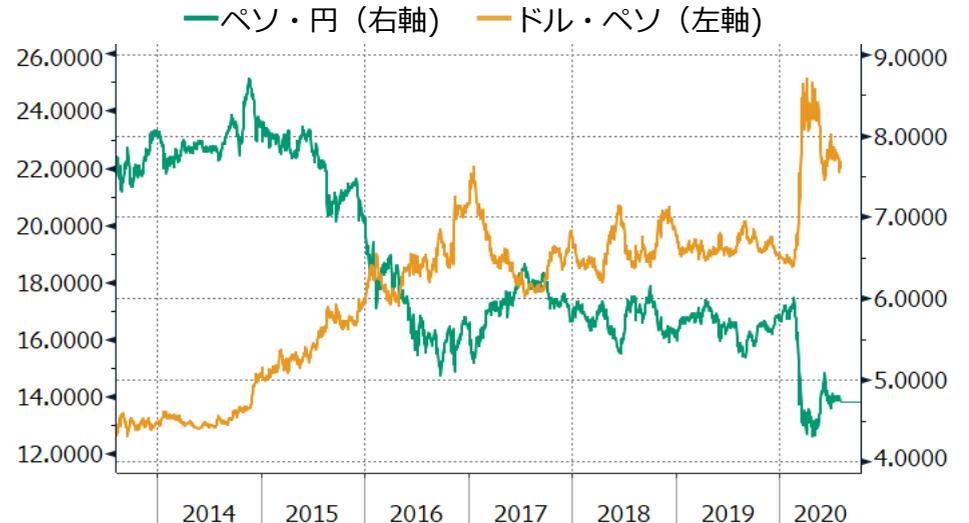
◎注意事項をよくお読み下さい

## りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/07/31



### ◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/07/31

## ◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
8/3(月)		6月建設支出 7月ISM製造業景況感指数		8/17(月)	4-6月期GDP1次速報値 6月稼働率	6月対米証券投資 8月NY連銀製造業景況指数	
8/4(火)	10年債入札 7月マネタリーベース		(豪) 準備銀行理事会	8/18(火)	30年債入札	7月住宅着工	
8/5(水)		6月貿易収支 7月ADP民間雇用調査	(EU) 6月小売売上高	8/19(水)	7月貿易統計 国庫短期証券(1年)		
8/6(木)	10年物価連動国債 国庫短期証券(6ヶ月)		(英) BOE金融政策委員会 (中) 7月貿易統計	8/20(木)	5年債入札	7月景気先行指数 8月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
8/7(金)	6月景気動向指数 6月毎月勤労統計 国庫短期証券(3ヶ月)	6月消費者信用残高 7月雇用統計		8/21(金)	7月CPI 国庫短期証券(3ヶ月)	7月中古住宅販売件数	(EU) 8月ユーロ圏PMI
8/10(月)	(山の日)		(中) 7月CPI	8/24(月)	国庫短期証券(6ヶ月)	7月シカゴ連銀全米活動指数	
8/11(火)	7月景気ウォッチャー調査 7月貸出・預金動向		(独) 8月ZEW景気期待指数	8/25(火)	20年債入札	6月S&P700 <sup>®</sup> CS住宅価格指数 7月新築住宅販売 8月リッチモンド連銀製造業景況指数	(独) 8月IFO景況指数
8/12(水)	7月マネーストック 流動性供給入札(残存期間15.5年超39年未満)	7月CPI 7月財政収支	(EU) 6月鉱工業生産 (NZ) 準備銀行理事会	8/26(水)			
8/13(木)		7月輸入物価指数		8/27(木)	2年債入札	4-6月期GDP改定値 7月中古住宅販売成約指数	
8/14(金)	6月第3次産業活動指数 国庫短期証券(3ヶ月)	6月企業在庫 7月鉱工業生産 7月小売売上高	(EU) 4-6月期四半期GDP (中) 7月固定資産投資 (中) 7月鉱工業生産 (中) 7月小売売上高	8/28(金)	国庫短期証券(3ヶ月)	7月個人所得・消費支出	
				8/31(月)	7月鉱工業生産 7月住宅着工件数		(中) 8月PMI製造業

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 景気の現状 日本

日本経済は緊急事態宣言による急速な悪化局面は脱し緩やかに持ち直しつつあるものの、内外需ともに水準はコロナ前を大きく下回る状況が続く。6月日銀短観では宿泊・飲食や製造業では自動車産業の景況感に特に低下幅が大きい。

### 鉱工業生産

6月の前月比	2.7%
生産予測	7月：11.3% 8月：3.4%

6月は前月から持ち直したものの、3-5月にかけて累計で20%超落ち込んでいた中では戻りが鈍い。7月以降も緩やかな回復基調が予想される

### 貿易統計

	5月	6月
貿易収支		▲2,693億円
輸出(前年比)	▲28.3%	▲26.2%
輸入(前年比)	▲26.1%	▲14.4%

内外需ともに下振れも輸出の戻りは依然として鈍く、貿易収支は▲2,693億円の赤字。米国向けの輸出に特に弱さが残る。

### 景気ウォッチャー調査

	5月	6月
現状判断DI	15.5	38.8

緊急事態宣言解除で現状判断DIは大きく回復したものの、依然として50は下回り景況感の回復は鈍い。

### 機械受注

	前月比	金額
5月の民需コア	+1.7%	7,650億円

前月比+1.7%も前月(▲12.0%)からの戻りは鈍くトレンドとしては弱さが続く。基調判断は「足元は弱含んでいる」

### 全国消費者物価指数(前年比)

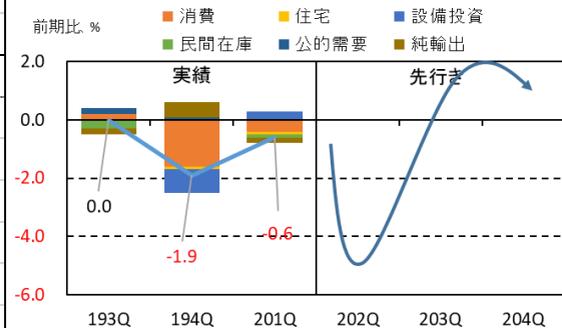
	5月	6月
総合	0.1%	0.1%
コア (除く生鮮食品)	▲0.2%	0.0%
コアコア (除く生鮮食品・エネルギー)	0.4%	0.4%

原油価格の持ち直しから石油製品の価格が上昇し、コア物価は前年比0.0%と下落幅縮小。

## ★ GDP見通し ★

- ・4-6月期のGDPは8/17に1次速報値が公表される。4-5月の緊急事態宣言による内需の大幅な落ち込み、及び欧米の需要低下による輸出減少を受けて、年率では▲20%程度の大幅なマイナス成長が予想される。
- ・緊急事態宣言解除後の景気底入れを受けて7-9月期以降では反動でのプラス成長が予想される。一方で先行きはコロナウイルスの動向に依拠するところが非常に大きい。足元の感染再拡大により再度の経済制限措置を求める機運が高まれば、景気回復シナリオは大幅に下押しされる。

内訳は寄与度(%,%pt)	2019年度	2020年度	2021年度
	実績	予測	予測
実質GDP	0.0	-5.0	3.5
個人消費	-0.3	-2.7	1.9
住宅投資	0.0	-0.2	0.1
設備投資	0.0	-1.0	0.8
在庫投資	-0.1	-0.1	0.0
公的需要	0.6	0.4	0.1
外需	-0.2	-1.2	0.5



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

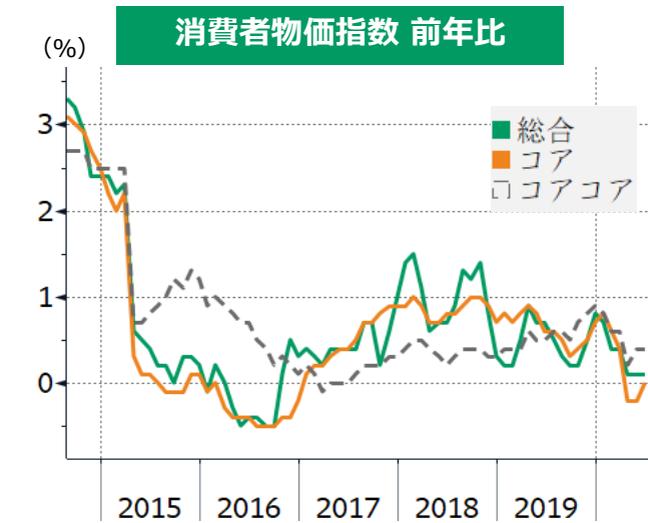
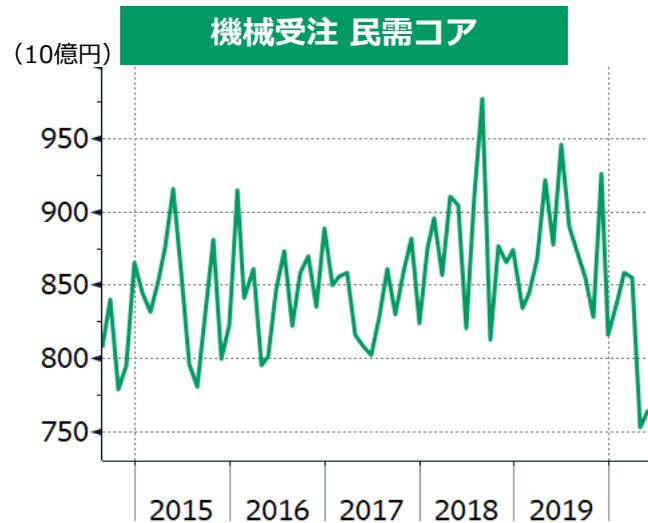
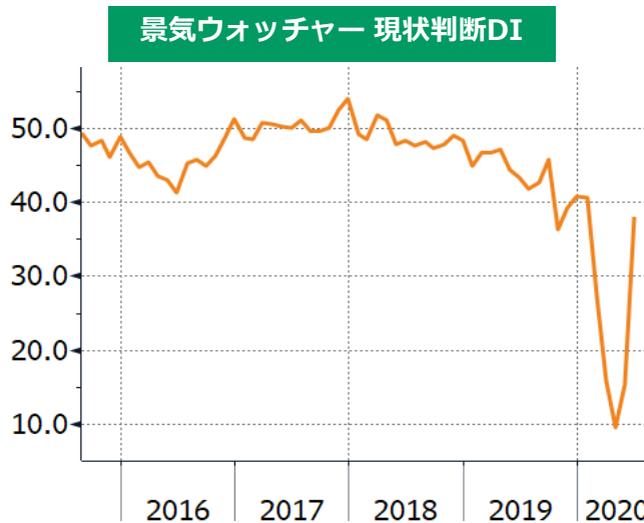
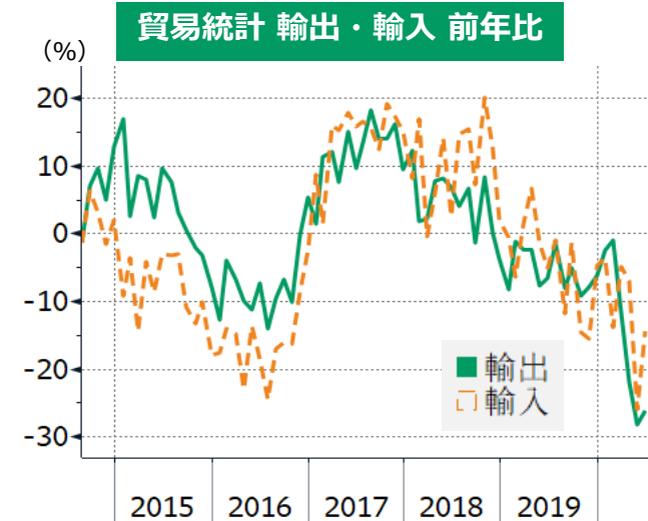
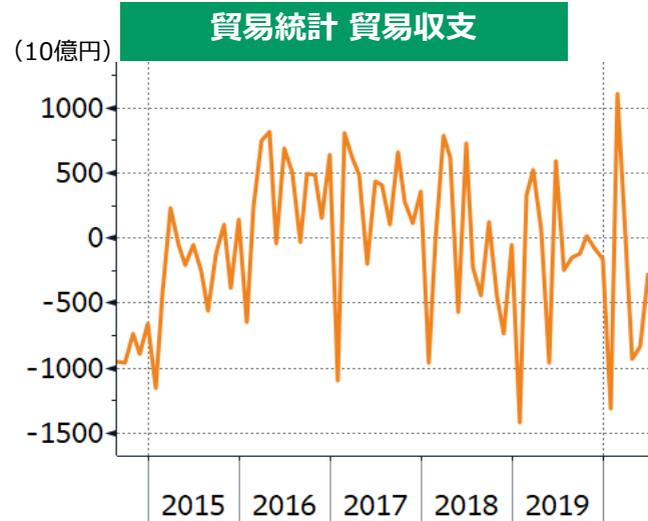
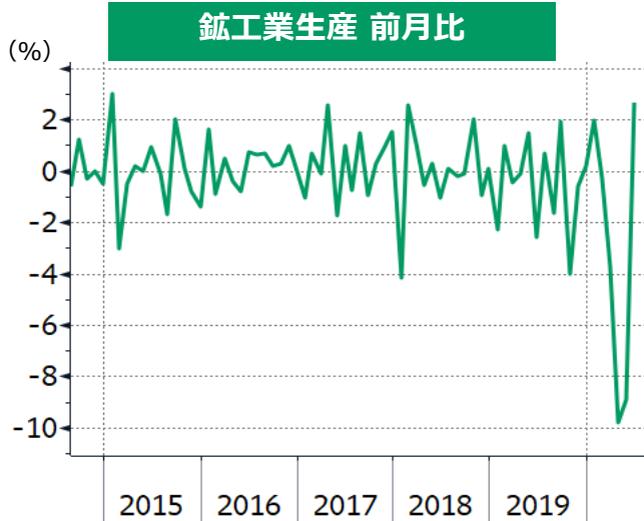
◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

(出所: Bloomberg)

## ◆ 日本 チャート集



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## ◆ 景気の現状 米国

米国景気は消費や雇用、企業の景況感はコロナ前の水準まで回復したものの、コロナ再拡大を受け7月の消費者信頼感には警戒感が表れている。4-6月のGDP成長率は前期比年率▲32.9%と経済制限の影響で統計開始以来最大のマイナスとなった。

個人消費	5月	6月
小売売上高	18.2%	7.5%

現金給付や失業給付などの経済対策の恩恵や制限の緩和の効果から前月からは失速したものの堅調に推移。家具や衣料品、娯楽用品などが大幅に増加。

雇用統計	5月	6月
非農業部門雇用者数 (前月差)	+269.9万人	+480.0万人
失業率	13.3%	11.1%

3-4月で大幅に落ち込んだ娯楽や教育・医療、小売などを中心にサービス業の雇用が回復。ただしコロナ前の水準には依然大きく及ばず、今後回復が継続するか注目。

企業景況感	5月	6月
ISM製造業指数	43.1	52.6
ISM非製造業指数	45.4	57.1

経済の再開が進んだことを受け、製造業、非製造業ともに生産（事業活動）や新規受注が大幅に回復し、6月の企業マインドは改善した。一方、雇用や新規輸出受注、輸入は回復したが中立水準には届かず。

消費者マインド	6月	7月
ミシガン大学消費者信頼感指数	78.1	73.2

7月以降、一部の州でコロナの再拡大により制限の再開や緩和の停止が広がったことから消費者マインドは低下。

## ◆ 景気の現状 欧州・中国

欧州経済はコロナ終息とともに経済の再開が進み指数全般で回復がみられる。中国経済は4-6月期GDPが前年比+3.2%とプラス圏を回復、他国に先駆けたコロナ禍からの回復基調が鮮明。

ドイツ	前月比	
5月の鉱工業生産	7.8%	
5月の小売売上高	12.7%	
	6月	7月
IFO企業景況感指数	86.3	90.5
ZEW景況感期待指数	63.4	59.3

経済再開とともに5月の生産・小売は、前月比プラスに転じた。特に小売は、3月、4月のマイナス分を回復。景況感も総じて回復基調となっている。

ユーロ圏	5月	6月
CPI (前年比)	0.1%	0.3%
	6月	7月
総合PMI	47.4	51.1
製造業PMI	48.5	54.8

消費者物価は前年比0%近辺での推移が続く。経済再開を背景に景況感は製造業・サービス業ともに回復が続き7月は節目の50を回復。

中国	5月	6月
鉱工業生産 (前年比)	4.4%	4.8%
小売売上高 (前年比)	▲2.8%	▲1.8%
固定資産投資 (年初来前年比)	▲6.3%	▲3.1%
貿易統計 (輸出：前年比)	▲3.2%	0.5%
	6月	7月
製造業PMI	50.9	51.1

製造業PMIは5か月連続で節目の50を維持。生産・小売・投資はそれぞれ緩やかに回復しているものの消費の戻りには鈍さ。

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

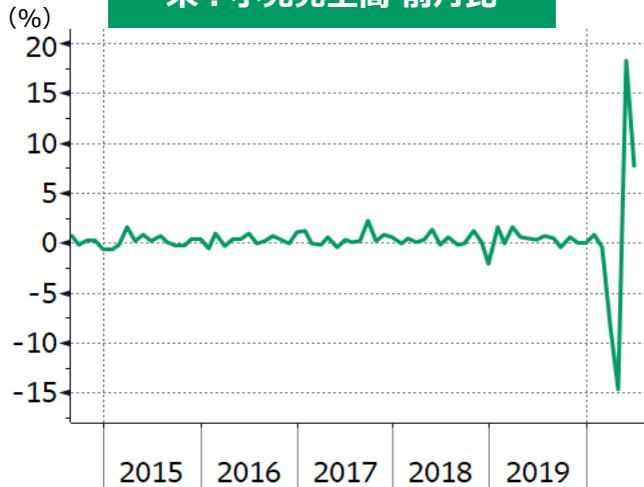


# リそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

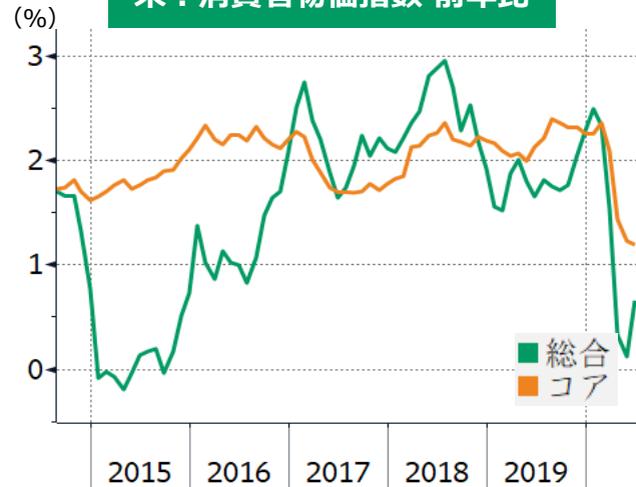
## ◆ 米国・欧州・中国 チャート集

(出所: Bloomberg)

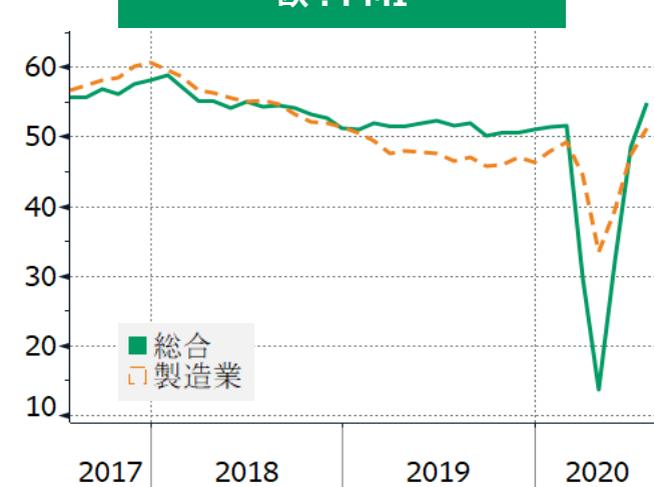
米：小売売上高 前月比



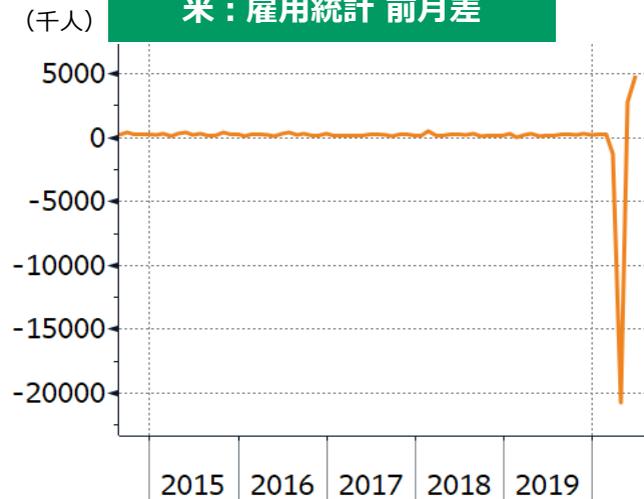
米：消費者物価指数 前年比



欧：PMI



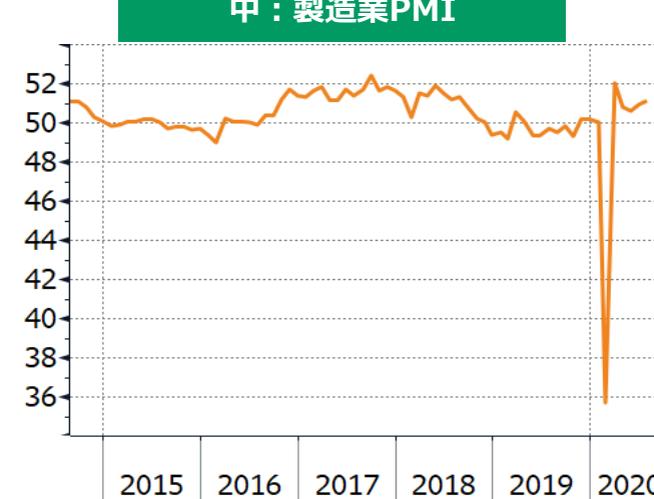
米：雇用統計 前月差



米：ISM製造業指数



中：製造業PMI



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## 中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/24 ~ 7/2】

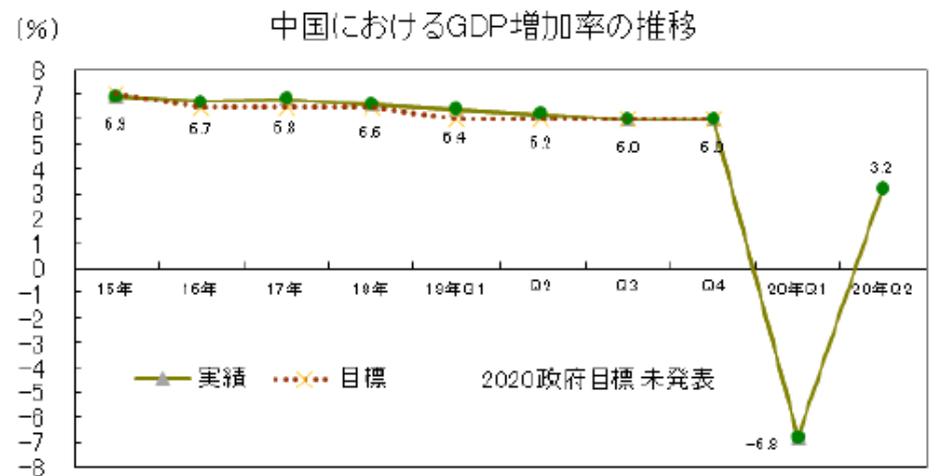
### ◎外資ネガティブリスト2020年版発表

中国発展改革委員会と商務省は6月24日、「外商投資参入特別管理措置」(別称:外資ネガティブリスト)の2020年版を発表した。外商投資が禁止または制限される業種は19年版リストの40項目から33項目まで減少し、外資の誘致及び利用に対する積極的な姿勢を示した。最も大きな変更点としては、証券会社や生命保険会社など金融分野の外資規制が全て撤廃され、完全に開放されたことだった。当局は同リストについて「新型コロナウイルスの感染拡大で各国経済が深刻な影響を受ける中、より開放された投資環境を外資に提供する」と説明した。

【7/3 ~ 10】

### ◎「定額乗り放題」サービスを導入航空会社が 減収穴埋め

中国の航空会社が、新型コロナウイルスの影響による収益悪化を背景に航空券の「定額乗り放題」サービスを相次いで導入している。例えば、海南航空は半年間2,699人民元(約4万円程度)の乗り放題航空券を発売。一方、「定額乗り放題」航空券の販売拡大と共に、様々なトラブルが発生しており、「座席に空きがあるのに予約ができない」、「キャンセルの電話が繋がらない」など、使い勝手が悪いとの声が相次いでいる。



◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## 中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

### 【7/10 ~ 16】

#### ◎ 6月新車販売台数 11.6%増過去最高

中国自動車工業協会によると、6月の新車販売台数は前年同期比11.6%増の230万台となり、6月の単月販売の過去最高を記録した。一方で、上半期（1-6月）の累計販売台数と生産台数はそれぞれ前年同期比▲16.9%の約1,026万台と同比▲16.8%の約1,011万台となった。うち、乗用車は落ち込みが続いているが、商用車の販売・生産実績はいずれもマイナスからプラス成長に好転した。新車市場は新型コロナウイルスの打撃から回復傾向にあるものの、依然として先行きが不透明な海外の状況や政府による支援策終了後の反動が懸念されている。

### 【17 ~ 23】

#### ◎ 上半期のGDP 1.6%減第2四半期 3.2%増

中国国家统计局によると、第2四半期のGDPが前年同期比3.2%増となり、第1四半期の▲6.8%からプラスに好転した。上半期累計のGDPは▲1.6%となった。内訳としては、第1次産業は0.9%増、第2次産業は▲1.9%、第3次産業は▲1.6%だった。なお、同月の都市部調査失業率は5.7%に改善し、上半期のCPIは3.8%に縮小したことから、雇用状況や物価は概ね安定しており、中国経済は段階的な回復を遂げたと同局の報道官が強調した。

## 主要経済指標

項目	単位	2019/8	2019/9	2019/10	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6
実質GDP成長率	%	-	6.0	-	-	6.0	-	-	-6.8	-	-	3.2
消費者物価上昇率	%	2.8	3.0	3.8	4.5	4.5	5.4	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5
失業率	%	-	3.6	-	-	3.6	-	-	3.7	-	-	-
輸出額	10億ドル	214.9	218.2	213.0	221.4	238.6	-	-	185.1	200.1	207.1	213.6
輸入額	10億ドル	180.2	179.1	170.7	184.3	191.4	-	-	165.1	154.9	144.1	167.2
経常収支	100万ドル	-	100,805	-	-	141,336	-	-	-33,696	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,107.2	3,092.4	3,105.2	3,095.6	3,107.9	3,115.5	3,106.7	3,060.6	3,091.5	3,101.7	3,112.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.06	7.12	7.08	7.02	7.01	6.92	7.00	7.02	7.07	7.11	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

## ○上海の喫煙に関する調査について

- 上海市市民健康促進センターは上海における喫煙行為の調査を行いました。その調査は今年で連続6年目となり、具体的な結果は下記の通りです。
- ◆上海市での禁煙条例（屋内は原則全面禁煙）の実施から今年で10周年となり、上海市内における施設のうち禁煙とされている場所は全体の98.9%
  - ◆2019年度の上海喫煙率は2018年の19.9%から19.7%となり、0.2%減少。うち女性の喫煙率は前年比横ばいで0.8%。男性では37.4%までに減少
  - ◆上海市内の施設30万か所に禁煙検査を実施、うち1,170か所で問題が見つかり、計260万人民元の罰金。また、個人喫煙者に対しては1,158名に約8万人民元の罰金
  - ◆違法な喫煙行為は、商業施設の階段、学校の食堂、娯楽施設、飲食店、企業の事務室などに集中
  - ◆歩きたばこに対しては92.4%の市民が反感を持っており、60%の市民が喫煙場所を設置すべきだと思っている

上海の禁煙については確実に進んでおり、特に若者の喫煙者が本当に減少していると実感しています。さらに中国で以前よく行われていた、街中において他人同士でタバコを譲り合う行為（挨拶・コミュニケーションとしての行為）は、現在の上海ではあまり見られなくなり、町の風景もだいぶ変わってきました。

## ○上海入国隔離措置の変更について

上海市政府は7月23日、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として実施された入国者に対する14日間の集中隔離義務について、一部「7日間集中隔離+7日間在宅隔離」へ変更することを発表しました。新措置は同月27日より実施する予定で、指定隔離機関の負担緩和や今後の入国緩和措置の実施準備として見られているようです。留意点については以下の通りです。

1. 隔離対象：国籍を問わず、すべての海外渡航者が対象。
2. 隔離期間：
  - A. 上海市、江蘇省、浙江省、安徽省に在住する場合  
7日間集中隔離（指定ホテル）を実施し、5日目に行うPCR検査が陰性の場合、8日目に自宅まで専用車で搬送し、7日間の在宅隔離を継続。
  - B. 上記地域以外に在住する場合  
従来通り、上海市で14日間の集中隔離が必要。
3. 隔離費用：宿泊費、食事代、PCR検査費用は個人負担。
4. 渡航前のPCR検査：搭乗日から遡って5日以内のPCR陰性診断証明の提出が必要。
5. 異例扱い  
高齢者、未成年者、妊婦、持病のある対象者等は、上海入国後に直ちにPCR検査を実施。陰性の場合、14日間の在宅隔離を申請可能。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年8月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

## タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

- ◆タイ中央銀行が発表した2020年5月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は前月に続いて落ち込んだ。新型コロナウイルス感染拡大対策に伴う外国人の入国禁止により観光業が打撃を受けた。外需の低迷により輸出額が減少。民間消費指数は前年同月比12.5%低下した。非耐久消費財、耐久消費財、半耐久消費財、サービスの各指数は依然としてマイナス成長となった。工業生産指数は同23.2%下落した。民間投資指数は同12.5%減。一方、政府による経済支援策により公共投資は伸びた。
- ◆タイ中央銀行は24日、2020年のタイの国内総生産（GDP）成長率は見通しを3月時点の5.1%減から8.1%減に下方修正した。新型コロナウイルス感染による国内の景気及び世界経済に与える影響が従来の想定を上回ることが挙げられる。2021年のGDP成長率は観光業の回復を見込み、5.0%増と予想している。
- ◆タイ商業省によると、2020年5月の輸出額は前年同月比22.5%減の162億7,840万米ドル。20%以上の減少幅は2009年7月以来11年ぶりとなった。新型コロナウイルスの流行による缶詰類等加工食品の需要が増加し、農産物・加工品

の輸出は前年同月比2.5%増加した。一方で工業製品は同27.0%減少。半導体や集積回路（IC）等は増加したが、自動車・同部品、コンピューター・同部品、ゴム製品等は減少した。市場別では、中国向けの輸出額が最多だった。日本、米国、中東、東南アジア諸国連合（ASEAN）、欧州連合（EU）向けは減少した。輸入額は同34.4%減の135億8,380万米ドル。この結果、貿易収支は26億9,460万米ドルの黒字となった。一方、5月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=32.02パーツで、前月の32.62パーツ比パーツ高となった。

◆タイ商業省が発表した6月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比1.57%下落した。下げ幅は5月の3.44%から縮小した。燃料や野菜・果物の価格上昇、政府による生活支援目的の水道光熱費削減の景気刺激策が終了したこと等が要因。食品・飲料は同0.06%上昇したが、非食品は同2.53%下落。また、今年1～6月のCPI平均値は前年同期比1.13%下落した。

## 主要経済指標

項目	単位	2019/8	2019/9	2019/10	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6
実質GDP成長率	%	-	2.6	-	-	1.5	-	-	-1.8	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.5	0.3	0.1	0.2	0.9	1.1	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6
失業率	%	-	1.1	-	-	1.0	-	-	1.1	-	-	-
輸出額	100万ドル	21,955	20,409	20,770	19,649	19,179	19,626	20,642	22,405	18,948	16,278	-
輸入額	100万ドル	19,862	19,206	20,251	19,108	18,451	21,181	16,744	20,813	16,486	13,584	-
経常収支	100万ドル	4,315	3,650	3,069	3,249	4,390	3,179	5,195	544	-654	64	-
外貨準備高	10億ドル	220.2	220.5	222.8	221.0	224.3	230.3	229.5	226.5	235.7	237.3	241.6
主要政策金利	%	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.25	1.00	0.75	0.75	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	30.8	30.6	30.4	30.3	30.2	30.5	31.3	32.1	32.6	32.1	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



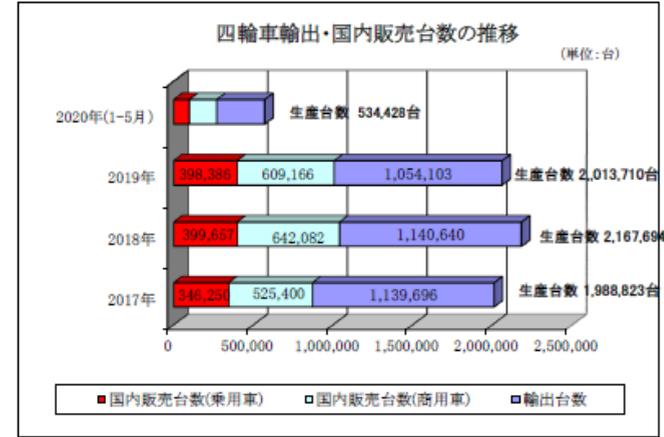
# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2020年8月号)

## タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟(FTI)

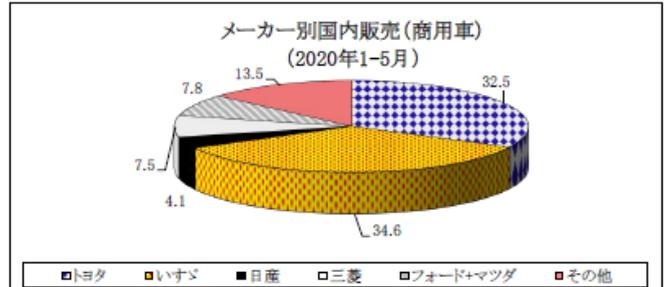
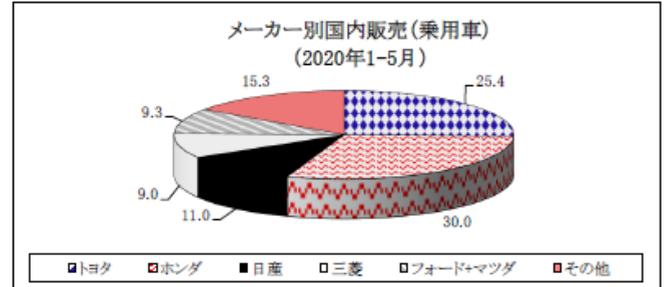
		2017年	2018年	2019年	2020年 (1-5月)	前年同期比 (%)	5月	
【台数】 (台)								
四輪	生産台数	乗用車	826,787	884,609	804,340	202,767	56.6	20,110
		商用車	1,162,036	1,283,085	1,209,370	331,661	62.0	35,925
		合計	1,988,823	2,167,694	2,013,710	534,428	59.8	56,035
	国内販売台数	乗用車	346,250	399,657	398,386	98,948	57.8	11,733
		商用車	525,400	642,082	609,166	171,643	64.4	28,685
		合計	871,650	1,041,739	1,007,552	270,591	61.8	40,418
輸出台数		1,139,696	1,140,640	1,054,103	300,501	65.0	29,894	
二輪	生産台数	2,055,193	2,063,076	1,948,480	606,696	74.3	66,669	
	国内販売台数	1,810,771	1,788,323	1,718,587	606,951	81.6	97,348	
	輸出台数	849,081	886,275	948,839	315,760	80.0	27,370	
【完成車輸出金額】 (百万バツ)								
四輪		603,038	594,810	545,968	158,741	67.9	17,503	
二輪		54,828	61,654	69,933	26,351	91.7	2,575	



### 【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2017年	シェア (%)	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年 (1-5月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	5月
トヨタ	乗用車	96,606	27.9	112,394	28.1	117,708	29.5	25,124	49.6	25.4	3,557
	商用車	143,531	27.3	202,719	31.6	214,672	35.2	55,732	60.6	32.5	10,054
	合計	240,137	27.5	315,113	30.2	332,380	33.0	80,856	56.7	29.9	13,611
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	160,550	30.6	177,864	27.7	168,215	27.6	59,393	78.2	34.6	10,130
	合計	160,550	18.4	177,864	17.1	168,215	16.7	59,393	78.2	21.9	10,130
ホンダ	乗用車	95,078	27.5	95,793	24.0	96,154	24.1	29,702	74.7	30.0	3,514
	商用車	32,690	6.2	32,497	5.1	29,679	4.9	5,802	45.3	3.4	664
	合計	127,768	14.7	128,290	12.3	125,833	12.5	35,504	67.6	13.1	4,178
日産	乗用車	35,283	10.2	43,991	11.0	35,809	9.0	10,908	65.5	11.0	1,145
	商用車	24,426	4.6	28,403	4.4	28,605	4.7	7,071	56.8	4.1	1,526
	合計	59,709	6.9	72,394	6.9	64,414	6.4	17,979	61.7	6.6	2,671
三菱	乗用車	22,833	6.6	31,594	7.9	38,879	9.8	8,906	53.2	9.0	944
	商用車	46,904	8.9	52,966	8.2	49,365	8.1	12,854	60.5	7.5	1,823
	合計	69,737	8.0	84,560	8.1	88,244	8.8	21,760	57.3	8.0	2,767
その他	乗用車	96,450	27.8	115,885	29.0	109,836	27.6	24,308	51.3	24.6	2,573
	商用車	117,299	22.4	147,633	23.0	118,630	19.5	30,791	59.1	17.9	4,488
	合計	213,749	24.5	263,518	25.4	228,466	22.7	55,099	55.4	20.5	7,061
合計	乗用車	346,250	100.0	399,657	100.0	398,386	100.0	98,948	57.8	100.0	11,733
	商用車	525,400	100.0	642,082	100.0	609,166	100.0	171,643	64.4	100.0	28,685
	合計	871,650	100.0	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	270,591	61.8	100.0	40,418



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。